

聖メリ教会



I. 歴史

聖メリ教会はパリを南北に横切る古代ローマ街道（現在のサン・マルタン街）とサン・タントワン街、ラ・ヴェールリ街、サン・トノレ街を結ぶ東西の道路の交差点に位置しています。

聖メリ教会はパリのもっとも美しい教会の一つに数えられています。この教会の名祖は八世紀にパリに巡礼に訪れ、のちにここで亡くなったオータン大修道院の院長メレディクス（メリ）です。ノルマン人の襲来でパリは何度が包囲されましたが、その最後の包囲の西暦884年に、聖メリはパリ右岸の守護の聖人とされました。

十三世紀初頭に造営された最初の教会で現在も残っているのは、サン・マルタン街に面した窓だけです。十三世紀当時の主任司祭はジャンヌ・ダルク裁判の裁判官ジャン・ポーペールでした。近隣では十三世紀末の聖ルイ王の時代にロンバルディア地方の両替商が営業をはじめています。この教会の信徒には、青年時代のポッカチオ（1313年生）や後年カンタベリーの大司教となった聖エドモンドなどがいました。

1500年から1550年にかけて造営された現在の教会の特徴は、南側に側廊が加えられていること、またパリのノートル・ダム大聖堂とおなじように内陣と身廊（外陣）がほぼおなじ長さであることです。このことから聖メリ教会は小ノートル・ダムと呼ばれました。実際この教会にはノートル・ダムから七人の司祭が派遣されていました。

建築様式は十五世紀のゴシック様式ですが、堂内中央の十字交差部の窓と穹窿（アーチ型天井）にイギリスの

フランボワイヤン様式の影響が見られるものの内部は全体として華美に流れずすっきりと統一されています。

十八世紀に有名な彫刻家スロツツが当時の一般的な様式を踏襲して内陣に大理石を使った新たな飾り付けを施しました。ノートル・ダムにあるおなじ様式の飾り付けは聖メリ教会より数年早く施工されたものです。十八世紀にはこの他に、建築家のポフランドの設計でラ・ヴェールリ街添いに通称コミニオン（交わり）小聖堂と呼ばれる小聖堂が設けられました。

直線的表現から曲線的表現への回帰というバロック美術の特徴は天空を象徴する円天井に表れています（天から降り注ぐ光）。

全体としてはステンドグラスを重視するゴシック調の建築様式が伝えているのは「神は光なり」という福音史家ヨハネのメッセージですが、堂内の装飾は十七世紀初頭に「美は創造主に通じる一つの道である」として聖餐（聖体の秘跡）の重要性を再確認したトレント公会議の信仰復活のテーマを反映しています。

II. 主要美術作品

身廊のステンドグラスは十六世紀初頭の制作で、もとも見事なのは、入り口につづく南面二つのアーチ上部のミールの聖ニコラスと聖アグネスの生涯を描いたものです。

内陣と交差廊の八面の大窓はピネグリエの作品だと伝えられ、1540年ごろの制作です。右側の交差廊のステンドグラスにはエチエンヌ・マルセル家の四人の寄進者の像が描かれています。それにつづく三面は聖ペテロの布教活動を、内陣北側の作品は聖ヨゼフのエジプトでの生活をそれぞれ描いています。

外陣の説教壇は1753年にP. A. スロツツが制作したものです。

左側交差廊の祭壇には「囚人を解き放つ聖メリ」を描いたシモン・ヴェ（1640年）の作品があります。

左側の回廊の三番目の小聖堂の「エジプトのマリア」はシャセリオ作の壁画です（1843年作）。

内陣の祭壇上方の作品は太陽を囲んでロンドを舞う天使を描いたM. A. スロツツの「栄光」（1758年作）です。（「わたしは..世の光、いのち..」ヨハネ9-5, 14-6）。

内陣入り口の右側の祭壇にはカルロ・ヴァンアローの「青のマリア」（1765年作）があります。

右側側廊に向っているコミニオン小聖堂にはスロツツ兄弟制作の「聖書をもつ天使」と「聖杯をもつ天使」の浅浮彫り二面があります。

教会入り口右手の案内所を囲む木彫ルネッサンス様式の回廊は商事裁判官（現在の商事裁判所の前身）聖堂から移築されたものです。

大オルガンは1781年に有名なオルガン製作者クリコが修理改造したものです。ニコラ・ベックやサン・サーンズがここで演奏しました。オルガンの外装箱は十七世紀の作品です。

教会正面入り口の左側大戸上方に、フランス革命の被害を免れた鐘楼があり、1331年鑄造のバリ最古の鐘が現存しています。

III. 聖メリ教会の今日

聖メリ教会所には、アル・ポプール司牧センターと教区、それにチリ亡命キリスト教徒共同体が現在所属しています。

司牧センターは信徒と司祭のグループが活動の中心となって聖メリ教会を出会いと刷新の場にしようと努力しています。

常設展示は、今日の人間にとっての問題を提示して、私たちの悩みや希望を語り、人のことばで《神の言葉》を伝えています。

毎日、午後には案内係が勤務していますので、教会を訪れる方々に聖メリ共同体の信徒にお会い頂けます。

土曜日午後九時と日曜日午後四時には、音楽演奏があり、訪れる方々に無料で古典音楽や現代音楽などをお聞かせしています。

毎週日曜日午前十一時十五分から祈りとミサ聖祭が行なわれて、教会の共同体の人々が集まります。司牧センターは国際関係と人権問題に深い関心を寄せ、世界各国殊にラテン・アメリカ、東欧諸国、アフリカ、アジア諸国の共同体と緊密な連携があります。センターは悩みや闘い、希望や祈りを分かち合いたいと願われる外国の方々との出会いを促進し、その活動を支援する目的で会合などの行事を行なっています。

ボンピドウ・センターが近いこともあり、現在に信仰を生きることを願って、聖メリ教会では、ワークショップや出会いの会、討論会など毎年さまざまな活動が展開されています。司牧センターはその使命を果たし、より多くの呼び掛けに応えるために、皆様のアイデアやご提案をお待ちしています。